

この時代の祈り 詩篇 86:6-11

2021. 5. 2(皐月)丘の上 NO. 657

春日部福音自由教会 山田豊

「人々の願ひと努力が実を結び平らげき世の到を祈る」

今年の歌会始で天皇が詠まれた歌です。これは、この時代の中にある多くの人たちの祈り、願いであると思います。

キリスト者の祈りは、神を賛美する、礼拝する祈りです。祈りの対象が、しっかりとしているのです。この詩篇には、祈りの対象である神について、神は慈しみ深い方、赦しに富んでいる方、怒るのに遅く恵みに富んでいる方、そしてあらゆる神々に勝って大いなる方であることなどが、歌われています。それに反して、ダビデは自分自身のことを、あるいは今の境遇をどのように書いているのでしょうか。苦悩するダビデの姿が見られるではありませんか！「私は苦しみ、貧しいのです」から始まり、しもべであるなどと書かれています。その極めつけが13節の「あなたが私の魂を、陰府の深みから救い出してください」という言葉でしょう。絶望的な苦しみ、死を覚悟せざるを得ないほどの苦しみの中にと訴えているのです。しかし同時のこの言葉は、そこから救ってくださるのは、神であることも示しているのです。

祈りは、自分で叫ぶだけではなく、聞いてくださる方がいて完結します。ですからダビデは、耳を傾けてください、聞いてください、願いの声に心を留めてくださいと言っているのです。これは私たちも同じですね。

時に私たちの祈りや願いは、聞き届けられなかったのではないかと思うことがあります。いわば、祈りが叶えられないことがある、ということです。自分の願いや訴えがすべて叶うのが、祈りではありません。以前も学んだように、究極の祈りは、私たちの主が祈られたように「主よ、御心をなしてください」というものです。それは11節にあるように、へりくだり、心が一つにされ、神様の思いとも一つになることです。

この時代の祈りの多くは、コロナ禍の収束でしょう。宗教や国の違いを越えて、共通の祈りとなっています。身近なことだけでなく、世界を取り巻くいろいろな出来事や情報が、あなたの目や耳に入ってくることでしょう。それらはすべて、祈りの課題となります。私たちは、多くのことを祈れません。それらの中で、神様があなたに委ねられたテーマを覚えて、この時代の中で祈ってまいりましょう。

1 ペテロ 4:7,8

万物の終わりが近づきました。ですから、祈りのために、心を整え身を慎みなさい。何よりもまず、互いに熱心に愛し合いなさい。愛は多くの罪をおおうからです。

引用聖句

エステル 4:16 「行って、スサにいるユダヤ人をみな集め、私のために断食してください。三日三晩、食べたり飲んだりしないようにしてください。私も私の侍女たちも、同じように断食します。そのようにしたうえで、法令に背くことですが、私は王のところへ参ります。私は、死ななければならないのでしたら死にます。」

エペソ 6:19,20 「また、私のためにも、私が口を開くときに語るべきことばが与えられて、福音の奥義を大胆に知らせることができるように、祈ってください。私はこの福音のために、鎖につながれながらも使節の務めを果たしています。宣べ伝える際、語るべきことを大胆に語れるように、祈ってください。」

1 ペテロ 4:7,8 万物の終わりが近づきました。ですから、祈りのために、心を整え身を慎みなさい。何よりもまず、互いに熱心に愛し合いなさい。愛は多くの罪をおおうからです。

ノートルダム女学院 HP にアップされている祈り→添付参照